

農作物病害虫発生現況情報（4月）りんご編

1 モニリア病

- (1) 特定圃場（花巻市糠塚）にて、4月6日に胞子を飛散する子実体IV型が確認された（平年の胞子飛散開始推定時期は4月第3半旬）。
- (2) 本年のりんごの展葉日は平年よりも早く、県農業研究センター（北上市成田）の展葉日は4月3日（平年4月16日）となった。

2 腐らん病

- (1) 4月後半の巡回調査における発生園地率は16.1%（平年18.1%）であり平年並だった（図1）。

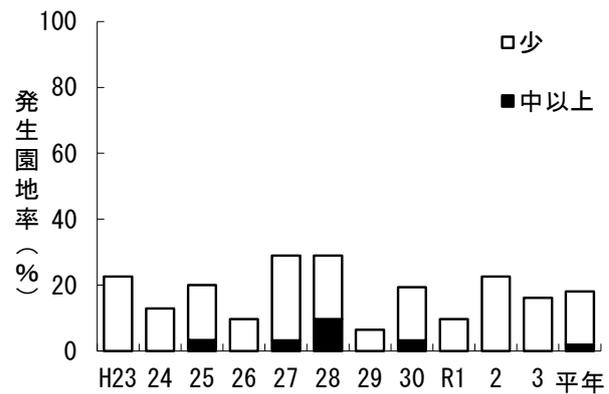


図1 腐らん病の発生園地率の年次推移（4月後半）

・少は発病指数0.04～0.5、中以上は発病指数0.5超。

・発病指数は10樹当たりの「胴腐らん+枝腐らん×0.1」。

3 リンゴハダニ

- (1) 3月下旬の巡回調査における越冬卵の寄生園地率は58.1%（平年22.5%）で平年より多かったが、発生程度が中以上の園地は無かった（図2）。

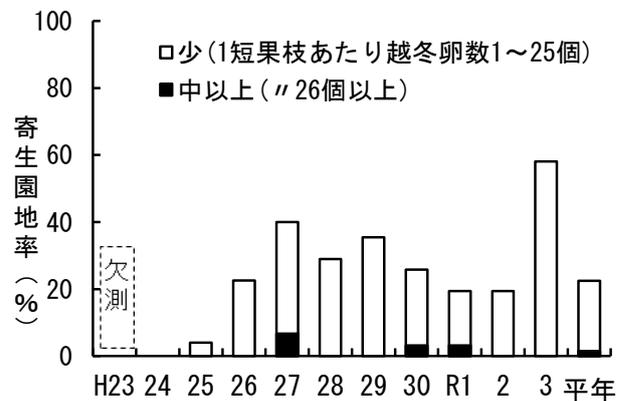


図2 リンゴハダニ越冬卵の寄生園地率の年次推移（3月下旬～4月上旬、短果枝）

4 ナミハダニ

- (1) 4月後半の巡回調査における花叢葉の発生園地率は16.1%（平年14.9%）で、平年並であった（図3）。
- (2) 下草寄生虫の発生園地率は38.7%（平年30.8%）で平年並であった（図4）。

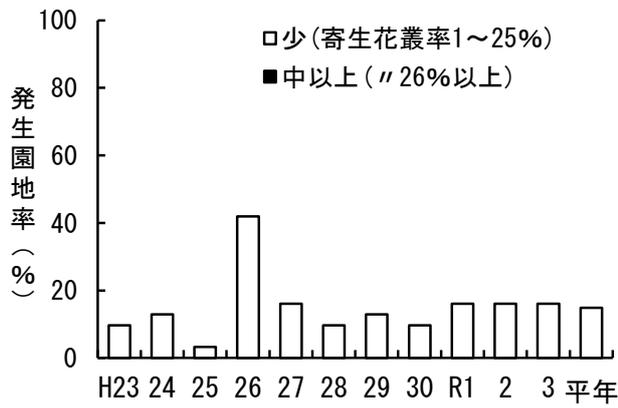


図3 ナミハダニの発生園地率の年次推移
(4月後半、花叢葉)

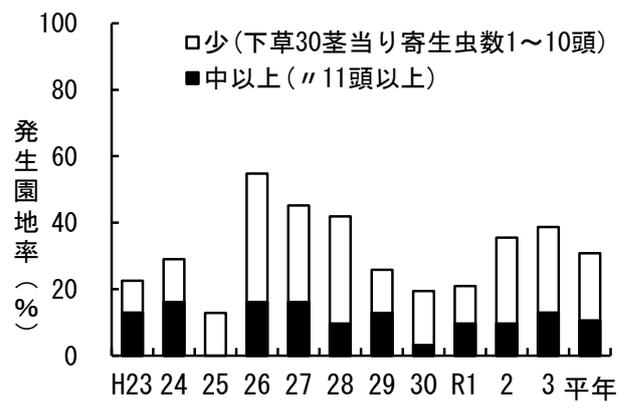


図4 ナミハダニの発生園地率の年次推移
(4月後半、下草)

5 ハマキムシ類

(1) 4月後半の巡回調査では、発生は確認されなかった (図5)。

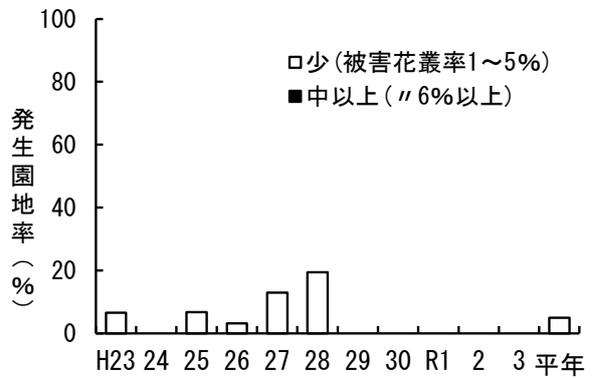


図5 ハマキムシ類の発生園地率の年次推移
(4月後半)

6 アブラムシ類

(1) 3月下旬から4月上旬の巡回調査における越冬卵の寄生園地率は32.3% (平年22.5%) で、平年より多く (図6)、4月後半の巡回調査における発生園地率は77.4% (平年68.9%) で平年よりやや多かった (図7)。

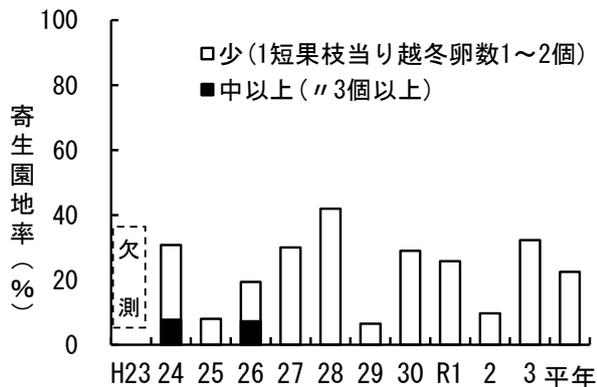


図6 アブラムシ類の寄生園地率の年次推移
(3月下旬~4月上旬、越冬卵)

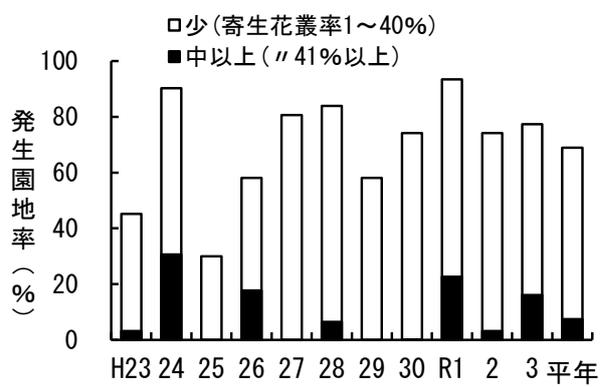


図7 アブラムシ類の発生園地率の年次推移
(4月後半)

7 果樹カメムシ類

(1) 作業小屋等に設置した簡易トラップによるクサギカメムシの越冬量は多かった(表1)。

表1 簡易トラップによるクサギカメムシ越冬量

調査年	頭数/地点名		越冬量の 評価
	盛岡市川目	金ケ崎町	
H23	12	98	多
H24	6	137	多
H25	1	15	少
H26	7	3.5	少
H27	24	3	並
H28	32	32	並
H29	181	339	多
H30	575	7.5	多
H31	337	54.5	多
R2	379	66.5	多
R3	186	91.5	多

※簡易トラップは、りんご木箱に新聞紙を重ねて詰め込み、園地内にある納屋の軒下等に設置した。

※盛岡市は反復無し、金ケ崎町は2反復の平均値、ただしH24は反復なしの値。

※越冬量の評価は、調査2地点のうち捕捉数が多かった地点で行い、中央値+30%以上を多、-30%以下を少、±30%を並とした。

※H23~R2のデータの中央値は32頭。